

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

安全で安心な居場所で小さな成功体験を積ませることで生徒を社会参画する市民として育て、社会に送り出すセーフティーネットとしての学校をめざす。

- 1 個に応じた学習指導の工夫に努め、学力の向上を図る。
- 2 生徒の自己実現を支援する進路指導を推進する。
- 3 豊かな心や社会性を育む。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成及び教員の授業力の向上

- (1) 「わかる授業」「できる授業」「魅力的な授業」をめざした、授業改善に取り組み、主体的に学習する力を身に付ける。
- ア 授業アンケート等を効果的に活用し、校内研修や公開授業など組織的な取り組みを推進する。
- イ UDL (Universal Design for Learning) の観点を踏まえながら、授業を生徒の「小さな成功体験の場」「自己肯定感の涵養の場」とすることをめざす。
- ウ 1人ひとりの「学習環境」を確保するため、授業規律の確立に努める。
- ※生徒向け授業アンケートにおける「授業の進捗や難易度」の肯定率を平成 30 年度には 95% とする。(平成 27 年度 88%)
- ※生徒向け学校教育自己診断における「授業はわかりやすい」の肯定率を平成 30 年度には 95% とする。(同上 81%)
- ※教員向け学校教育自己診断における「授業改善」の肯定率を平成 30 年度には 100% とする。(同上 82%)
- ※生徒向け学校教育自己診断「授業規律」の肯定率を平成 30 年度には 85% とする。(同上 71%)

2 キャリア教育及び進路指導の充実

- (1) 将来の自立や社会参加につながるキャリア教育や進路実現につながる進路指導を推進するため、カウンセリング及びガイダンス機能の充実に取り組む。
- ア 1人ひとりの生活の背景から理解し、生徒に寄り添い、支援・指導の強化を図る。
- イ 経営者や地域の人材、卒業生、大学や専門学校の職員などの講演を通して、生徒一人ひとりに将来像を確立させる。
- ウ 教育課程に位置付けたキャリア教育科目を通して、良き社会人として素養を身に付けさせる。
- エ 1人ひとりの勤労観を育成するため、適切な進路情報を提供し、生徒の理解を深めさせる。
- ※生徒向け学校教育自己診断における「教職員のカウンセリングマインド」の肯定率を平成 30 年度には 90% とする。(平成 27 年度 81%)
- ※生徒向け学校教育自己診断における「保健室など教室以外の所での居場所」の肯定率を平成 30 年度には 80% とする。(同上 63%)
- ※生徒向け学校教育自己診断における「進路情報周知」の肯定率を平成 30 年度には 90% とする。(同上 74%)
- ※保護者向け学校教育自己診断における「進路情報周知」の肯定率を平成 30 年度には 95% とする。(同上 88%)
- ※進学や就職希望のある卒業予定生徒へのアンケートでの満足度を 100% とする。(同上 97%)

3 豊かな心の涵養及び「社会の一員」としての自覚の醸成

- (1) 特別活動や生徒会活動を通して、生徒の自己肯定感や自己有用感を醸成する。
- ア 行事や生徒会活動、部活動などを通して、集団の中で人と調和し成功体験を得られよう、生徒が主体となる活動を支援する。
- イ 人間関係形成能力を育成するため、「挨拶運動」に取り組む。
- ※生徒向け学校教育自己診断における項目「学校行事」の肯定率を平成 30 年度には 90% とする。(平成 27 年度 79%)
- ※教員向け学校教育自己診断における項目「主体的な活動の支援」の肯定率を平成 30 年度には 90% とする。(同上 82%)
- ※生徒向け学校教育自己診断における「挨拶の励行」の肯定率を平成 30 年度には 95% とする。(同上 85%)

(2) 生命の尊さに気づかせ、自他を認める態度や人格の育成をめざす。

- ア 様々な人権問題の解決をめざし、人権教育に総合的に取り組み、「ともに学び、ともに育つ」教育を推進する。
- イ 支援や指導が必要な生徒に適切な対応を行うことができるよう、生徒支援体制を充実する。
- ※生徒向け学校教育自己診断における項目「人権学習」の肯定率を平成 30 年度には 90% とする。(平成 27 年度 80%)
- ※教員向け学校教育自己診断における項目「人権教育の推進」の肯定率を平成 30 年度には 100% とする。(同上 91%)

4 学校運営体制の確立及び人材の育成

- (1) 迅速な意思決定により、機動力のある効率的な学校運営をめざす。
- ア 「学校組織運営に関する指針」に基づき、企画会議及び運営委員会を学校運営の核として位置付けた学校運営の確実な定着をめざす。
- イ 各組織間の連携を密にし、会議等の精査を行い、校務の効率化を図る。
- ※教職員向け学校教育自己診断における項目「分掌や年次の連携」の肯定率を平成 30 年度には 90% とする。(平成 27 年度 73%)
- ※教職員向け学校教育自己診断における項目「会議の有効機能」の肯定率を平成 30 年度には 95% とする。(同上 82%)

(2) 次代を支える教員（ミドルリーダー・若手教員）の育成を図る。

- ア 教職経験の少ない教員を対象とした校内研修「フレッシュマン・セミナー」の実施や教員の自主研修を実施し、人材の育成を図る。

☆ これらの取組を通して、単位修得率の向上を図り、卒業生数の増加をめざす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 11 実施分]	学校協議会からの意見
<p>【授業】 (生徒)「教え方に様々な工夫をしている」 肯定率 84% (以下肯定率) (教員)「授業改善に努めている」 67% ☆ 今年度は授業改善に取り組んだ。この結果は教員の取組不足ではなく、取組を通して「授業改善」に関する理解が深まったためと考えられる。授業アンケートの平均値 86.1% であり、自己診断結果を上回っている。</p> <p>【進路指導】 (生徒)「進路や生き方について考える機会がある」 69% ☆ 昨年と比べて 7% 増えており、キャリアカウンセラーを活用した取組成果であると考えられ、引き続きその活用を継続していく。</p> <p>【生徒指導】 (生徒)「悩みや相談に親身になってくれる先生がいる」 77% (保護者)「学校は保護者の相談に適切に応じてくれる」 92% (教員)「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」 92% ☆ 個々の生徒の生活背景を理解した教員の指導の成果が出ていると考えるが、より一層取組みを充実させる必要がある。</p> <p>【学校運営】 (教員)「准校長は学校運営についての考え方を明らかにしている」 96% (教員)「学校運営に准校長のリーダーシップが発揮されている」 88% (教員)「校務分掌などの分担がなされ教職員が意欲的に取り組む環境にある」 42% ☆ 准校長の学校運営方針は浸透しているが、組織の位置づけについて教員の認識を深める必要がある。</p> <p>【安全】 (生徒)「災害がおこった場合どのような行動をとればよいか知らされている」 67% (教員)「災害等に対して役割分担が明確化されている」 49% ☆ 危機管理対応要領の時点修正を行い、周知徹底を図る必要がある。</p>	<p>第 1 回 (7 月 20 日) ○ 学校経営計画について ・ 新規採用教員が多い現状を踏まえ、人材育成に向けた「OJT」の取組は重要であり、「フレッシュマンセミナー」の回数や内容などについて確認いただき、一層の充実を図ることが望まれる。</p> <p>第 2 回 (12 月 2 日) ○ 授業改善について ・ Ⅲ部の生徒をどのような生徒に育てたいかという思いを全教員が共有することに意味があるとのことであるが「パッケージ研修」を行うだけでなくその効果について丁寧な分析を行い、取組みを継続することが望まれる。</p> <p>○ 授業アンケートについて ・ 出席できている生徒に関してはほぼ回収できているとのことであるが、在籍生徒数で考えると 5 割であり、今後より多くの生徒から回収できるよう取り組むことが望まれる。</p> <p>第 3 回 (2 月 3 日) ○ 学校経営計画について ・ 学校教育自己診断や授業アンケートの結果について、単に肯定率が低いことだけを以って、その取組みが不十分であると判断するのではなく本校の生徒の実状を十分に踏まえ、判断することが望まれる。 ・ 「授業改善」について、学校教育自己診断と授業アンケートで結果が異なっており、その要因について分析し、次年度への取組につなげることが望まれる。 ・ 人材育成を目的として実施している「フレッシュマンセミナー」が受講している新規採用教員にとって、どのような効果・成果があったのかを検証し、一層充実した研修とすることが望まれる。</p>

府立桃谷高等学校（Ⅲ部）

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成及び教員の授業力の向上	<p>(1) 「わかる授業」「できる授業」「魅力的な授業」をめざし、授業改善に取組み、主体的に学習する力を身に付ける。</p> <p>ア 授業アンケート等を効果的に活用し、校内研修や公開授業など組織的な取組みを推進する。</p> <p>イ UDLを踏まえ、授業を生徒の「小さな成功験の場」「自己肯定感の涵養の場」とすることをめざす。</p> <p>ウ 1人ひとりの「学習環境」を確保するため、授業規律の確立に努める。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・授業アンケート結果を踏まえた教員の個別面談を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 管理職による「授業観察」及び教員相互の「授業見学」を実施する。 「授業力向上」に関する校内研修を充実する。 <p>イ・UDLを意識するとともに、「生徒が参加する」授業をめざす。</p> <p>ウ・教員の共通認識を図り、授業中の私語やスマートフォンの使用を減少させ、授業規律を確立する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・教員の個別面談を2回以上実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 管理職による授業観察を2回以上、教員相互の授業見学も2回以上実施 「授業力アップ研修(仮称)」の実施 生徒授業アンケート「授業の進捗、難易度」の90% (H27: 88%) <p>イ・生徒学校教育自己診断「授業で発表する」の肯定率を70%以上 (H27: 62%)</p> <p>ウ・生徒学校教育自己診断「授業規律」の肯定率75%以上 (H27: 71%)</p>	<p>ア・授業アンケート結果の教員へのフィードバックや個別面談など各取組みについて計画通り実施した。授業アンケート「授業の進捗・難易度」の肯定率は88.4%であり概ね目標は達成した。次年度はより効果的な手法を検討しながら取組んでいく。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「パッケージ研修Ⅱ」を実施し、研究授業と指導主事による校内研修を行った。(○) <p>イ・生徒向け自己診断結果の「授業の発表」の肯定率は55%にとどまっているものの、授業アンケート全体の肯定率は86.1%であり、授業の充実は図れている。次年度は教員の「主体的な学習」の認識を深め、取組みの充実を図る。(△)</p> <p>ウ・後期から授業中のスマートフォン使用について指導の統一を図るなど、授業規律の確立に取組んだが、生徒向け自己診断の結果は61%に下降した。生徒の意識の向上も含め、次年度も引き続き取組みを進める。(△)</p>
2 キャリア教育及び進路指導の充実	<p>(1) 将来の自立や社会参加につながるキャリア教育進路指導を推進するためカウンセリング及びガイダンス機能の充実に取り組み。</p> <p>ア 1人ひとりを生活の背景から理解し、生徒に寄り添い、支援・指導の強化を図る。</p> <p>イ 経営者や地域の人材、卒業生、大学や専門学校の職員などの講演を通して、生徒一人ひとりに将来像を確立させる。</p> <p>ウ 教育課程に位置付けたキャリア教育科目を通して、良き社会人として素養を身につけさせる。</p> <p>エ 1人ひとりの勤労観を育成するため、適切な進路情報を提供し、生徒の理解を深めさせる。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・家庭、中学校や前籍校、勤務先などを訪問し生徒理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 管理職による担任面談を2回実施し、生徒状況の把握に努める。 懇談週間を設定し、生徒の懇談を実施する。 「教育相談」の校内体制について、生徒・保護者への周知を図り、活用を促す。 SCやSSWと連携し、外部機関を活用した生徒支援を実施する。 NPO法人と連携し「かめカフェ」実施し、生徒支援につなげる。 <p>イ・外部人材を活用した講演会を実施など、生徒個々の進路イメージを具体化させていく。</p> <p>ウ・学校設定科目「社会生活A・B」において、就労に向けた意識を持たせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 進路指導に関する教員研修を充実させる。 <p>エ 進路HRや面談などにおいて、個々の生徒に応じた進路情報を提供する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・懇談を年2回以上実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒「教職員のカウンセリングマインド」の肯定率85% (H27年: 81%) 生徒学校教育自己診断「教室以外の場所での居場所」の肯定率70% (H27: 63%) SC10回以上、SSW20回以上の活用。(H27: 10回、23回) <p>イ・進路講演会の実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒学校教育自己診断「将来の進路を考える機会がある」の肯定率70% (H27: 62%) <p>ウ・卒業予定生への進路に関するアンケートの「満足度」100%以上 (H27: 97%)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校幹旋の就職合格率80%以上 (H27: 84%) 全教職員が複数回の面接指導を実施 <p>エ・生徒学校教育自己診断「進路情報周知」の肯定率80% (H27: 74%)</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者学校教育自己診断「進路情報周知」の肯定率90% (H27: 81%) 生徒学校教育自己診断「各種制度周知」の肯定率90%以上 (H27: 90%) 	<p>(1)</p> <p>ア・生徒向け自己診断「教職員のカウンセリングマインド」の肯定率は77%とわずかに減少した。(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「かめカフェ」の実施が1月からの1か月間であったにもかかわらず、「教室以外の居場所」の肯定率は68%で増加しており、保健室での対応など、教員の指導が充実したと考えられる。次年度も個別指導週間を活用した生徒懇談など、取組みの充実を図る。(◎) <p>イ・生徒向け自己診断「進路を考える機会」の肯定率が69%でほぼ目標を達成した。キャリアカウンセラーを活用した効果が出ており、次年度も引き続き取組みを継続していく。(○)</p> <p>ウ・卒業予定生への進路に関するアンケートにおける進路指導の「満足度」は97.5%、また学校幹旋の就職率は88% (15/17人) であり、ともにほぼ目標を達成している。次年度も、全教職員による複数回の面接指導など継続して取り組んでいく。(○)</p> <p>エ・生徒向け自己診断「進路情報周知」の肯定率は81%であり目標は達成した。次年度は目標を上方修正し取り組む。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者向け自己診断「進路情報周知」の肯定率は83%で増加しているが目標に届かなかった。次年度はより効果的な方法を検討し、取り組む。(△) 生徒向け学校教育自己診断「各種制度周知」の肯定率は81%にとどまった。次年度は校内掲示の充実や対象生徒への個別指導の徹底を図っていく。(△)

府立桃谷高等学校（Ⅲ部）

<p>3 豊かな心の涵養及び「社会の一員」としての自覚の醸成</p>	<p>(1) 特別活動や生徒会活動を通して、生徒の自己肯定感や自己有用感を醸成するとともに、居場所づくりをめざす。</p> <p>ア 行事や生徒会活動、部活動などを通して、集団の中で人と調和し成功体験を得られよう、生徒が主体となる活動を支援する。</p> <p>イ 人間関係形成能力を育成するため、「挨拶運動」に取り組む。</p> <p>(2) 生命の尊さに気づかせ、自他を認める態度や人格の育成をめざす。</p> <p>ア 様々な人権問題の解決をめざし、人権教育に総合的に取り組み、「ともに学び、ともに育つ」教育を推進する。</p> <p>イ 支援や指導が必要な生徒に適切な対応を行うことができるよう校内支援体制を充実する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 年次単位で実施する総合学習やLHRにおいて、生徒に適切な役割分担をさせるなど、自己肯定有用感をもたせる仕掛けづくりをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 部活動の公式戦や生徒秋季発表大会など各種発表会への参加、出品及び発表を促し、その成果を全校生徒の前で表彰する。 HPを活用し、生徒の活動を積極的に発信する。 <p>イ 校内において教員が挨拶を励行し、生徒からも挨拶できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒会活動など、自主的な活動として、登下校時の「挨拶運動」に取り組む。 <p>(2)</p> <p>ア 人権教育推進委員会において作成した「年間計画」に基づき、教科や特別活動など教育活動全体で人権教育を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 合格者説明会、受講指導時等を利用して、本名指導をする。 外部講師による講演会を実施し、「生命の大切さ」等の理解を深めさせる。 <p>イ 高校生活支援カードを踏まえた「個別の教育支援計画」を作成し、生徒支援委員会が中心となり、個別に支援する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 生徒学校教育自己診断「学校行事」の肯定率85% (H27: 79%)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒学校教育自己診断「部活動や外部発表」の肯定率90% (H27: 83%) 教員学校教育自己診断「主体的な活動の支援」の肯定率85% (H27: 82%) 成果を収めた生徒に対しての表彰を全校生徒の前で実施したか <p>イ 生徒学校教育自己診断「挨拶の励行」の肯定率90% (H27: 85%)</p> <p>(2)</p> <p>ア 生徒学校教育自己診断「人権学習」の肯定率85% (H27: 80%)</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員学校教育自己診断「人権教育の推進」の肯定率95%維持 (H27: 91%) 対象生徒全員への実施したか <p>イ 高校生活支援カードを踏まえ生徒の必要に応じて「個別の教育支援計画」を作成したか</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員学校教育自己診断「生徒1人ひとりの課題に向き合う」の肯定率100% (H27: 95%) SC、SSCによる職員研修の実施 	<p>(1)</p> <p>ア 生徒向け自己診断「学校行事」の肯定率は75%にとどまっている。(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒向け自己診断「部活動や外部発表」の肯定率は74%にとどまっている。(△) 生徒会活動の停滞により教員向け自己診断「主体的な活動の支援」の肯定率は62%にとどまった。 <p>行事や生徒会活動については、部活への加入促進など根本的に計画全体を見直す必要がある。(△)</p> <p>イ 生徒向け自己診断「挨拶の励行」の肯定率は83%であり、挨拶は定着してきたと推察されるが、次年度についても引き続き取り組みを進めていく。(○)</p> <p>(2)</p> <p>ア 生徒向け自己診断「人権学習」の肯定率は84%であり概ね目標は達成した。年4回の人権HRなど本校の実態を踏まえ、取り組みを継続する。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員向け自己診断「参加体験型を取り入れた人権教育の推進」の肯定率は75%にとどまっております。次年度は学習方法の充実が図れるよう取り組んでいく。(△) 対象生徒に実施。外国籍生徒37名中33名が本名使用している。(○) 専門医師を外部講師として、生徒全員を対象とした講演会を実施した。次年度も引き続き取り組んでいく。(○) <p>イ 高校生活支援カードを踏まえ、必要な生徒の「個別の教育支援計画」を作成することで、効果的な支援ができた。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員向け学校教育自己診断「生徒1人ひとりの課題に向き合う」の肯定率は92%であり昨年度とほぼ変化はなかった。(○) SSCによる教員研修を実施し、認識を深めた。(○)
<p>4 学校運営体制の確立及び教職員の資質向上</p>	<p>(1) 学校運営体制の確立及び教職員の資質向上</p> <p>ア 企画会議及び運営委員会を学校運営の核として位置づけた学校営の確実な定着をめざす。</p> <p>イ 各組織間の連携を密にし、会議等の精査を行い校務の効率化を図る。</p> <p>(2) 次代を支える教員（ミドル・若手教員）の育成を図る。</p> <p>ア 教職経験の少ない教員を対象とした校内研修「フレッシュマン・セミナー」の実施や教員の自主研修を実施し、人材の育成を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 企画会議及び運営委員会が学校運営の中心となるよう校内の諸課題について検討や立案、調整の場とする。</p> <p>イ 組織間で連携し、業務の見直しを行い、効率的な会議を行なうなど、公務の効率化を図る。</p> <p>(2)</p> <p>ア 管理職や中堅教員が講師となり初任者も含め、2年目から4年目までの教員を対象とした「フレッシュマン・セミナー」を開催し、人材の育成を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 定通独自の初任者研修を実施し、意見交換など定時制の課題を共有をし、初任者の資質向上を図る。 経験の少ない教員が主体となった研修を実施する。 	<p>(1)</p> <p>ア 教職員 学校教育自己診断「分掌や年次の連携」の肯定率80% (H27: 73%)</p> <p>イ 教職員 学校教育自己診断「会議の有効機能」の肯定率 90% (H27: 82%)</p> <p>(2)</p> <p>ア 「フレッシュマン・セミナー」の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員の自主研修の実施 	<p>(1)</p> <p>ア 今年度組織の再構築を行ったことなどにより教職員向け自己診断「分掌や年次の連携」の肯定率は54%にとどまった。次年度は分掌や年次会議の設定の仕方を工夫するなど一層の取り組みを進めていきたい。(△)</p> <p>イ 運営委員会や職員会議の適切な運営に努めたことから教職員向け自己診断「会議の有効機能」の肯定率は58%となった。次年度については各種会議の目的や位置づけの理解が深まるよう取り組みを進める。また、併せて組織の効率化に取り組んでいく。(△)</p> <p>(2)</p> <p>ア 「フレッシュマン・セミナー」を10回開催した。今年は管理職・中堅教員に加え、2年目の教員も講師となるなど若手教員の育成につながった。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> 新規採用教員が新採4年目までの教員と研究・協議しながら本校の教育課題について発表する研修会を実施した。(○)